



今年は「夜明け前」の年になるか

社団法人 全国技能士会連合会会長
大関東支夫

明けましておめでとうございます。皆様、良い新年をお迎えでしょうか。

私は例年通り、箱根の山中から、「箱根大学駅伝」を応援することから始まりました。

目も眩むような箱根の山道をひた走る若者たち。声を嗄らして応援する人たち。毎年、この二つの強力パワーが私のエネルギーとなります。そして楽しみは、寒風の中で冷え切った体を、熱く癒してくれる温泉と地酒の熱爛です。正に、至福の瞬間です。

ところで地酒といえば、昨年、長野県松本市で開催された「技能五輪」に出向いた折に飲んだ「夜明け前」というお酒は格別でした。名前からして長野県の生んだ文豪、島崎藤村の小説、「夜明け前」から名付けたと思われます。藤村の父親がモデルとなった小説です。

主人公は明治維新前後の動乱期に、宿役人、村役人としての責務と信奉する国学思想とに苦悩し、期待した新時代にも裏切られ狂死していきます。新時代への期待が大きかっただけに、「救い難い暗黒の時代になった」と受け止めたのです。太陽が昇り始める1時間ほど前（「夜明け前」）が一日のうちでもっとも暗い瞬間だそうです。歴史の転換期にはこれと似たような暗い現象があるように思います。

今の日本は、政治も経済も大混迷状況。総理も次々と変わり、外交面では近隣諸国との領土問題が深刻化しています。東日本大震災の復興も原発処理も未だに見通しがたっていません。雨後の竹の子のように誕生・乱立した政党。政策もバラバラ。国民の幸せよりも党利党略、政治家の保身だけが目立ちます。唯一、一極化してきそうな政策は、憲法改正（第9条・戦争の放棄）だけ。正に、真っ暗闇の日本です。この暗さは、これからもっと厳しくなる暗黒の暗さなのか。それとも、新しく希望に満ちた、「新生日本」誕生のための「夜明け前」の暗さなのか。

日本人はそれほどまでに愚かで夢を持たない集団なのでしょうか。明治維新、戦後復興の二大奇跡を成し遂げた国民です。大震災で被災地の方々の整然と耐える姿に世界中の人たちが感動しました。中国での日本車や商店破壊の映像をみても、日本では中国人に危害など与えません。日本人の質の高さが再評価されています。腕力だけを誇る国家は、ただの暴力国家であり、やがては国民の支持を失い自滅する国家です。

日本は世界から尊敬され信頼される国家、国民を幸せにできる国にしなければなりません。その進むべき大道は、「ものづくり大国」です。「人づくり、ものづくり、国づくり」を基軸にして総力をあげることです。「ものづくり立国」「ものづくり自治体」が優先目標です。私たち技能士会の役割と責任は益々大きなものとなります。

今年も厳しい年になりますが、夢と希望を大きく持って、「夜明け前」となるであろうこの年を明るく元気に走り続けましょう。